

平成22年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果について

東京都教育委員会が、平成22年10月26日（火）に都内の小学校5年生を対象に実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」につきまして、本校の調査結果の分析と考察、そして、確かな学力向上に向けた今後の取組がまとまりましたのでお知らせします。

1. 読み解く力に関する調査

(1) 正答率（都・区・本校）及び分析と考察

	国語	社会	算数	理科	全体平均	取り出す	読み取る	解決する
東京都	73.7	71.7	53.5	65.8	65.2	81.1	60.1	55.6
江戸川区	72.5	69.2	48.0	62.6	61.9	79.0	56.5	51.6
本校	71.1	70.6	48.1	62.5	61.9	79.0	58.8	48.7

※ 単位 % ， 江戸川区の平均を上回るもの ， 下回るもの 。

江戸川区は、全ての項目で都を下回っている。本校は、さらにその区を半分の項目で下回っている。

教科別では、社会、算数で区を上回っている。社会は、これまでの調査でも上回ることが多かった。小松菜栽培、江戸風鈴など、地域の特性を生かした指導計画が功を奏していると考えられる。また今回、算数で区を上回ったことは、「篠小タイム」が有効に機能した結果だと分析している。

読み解く力では「問題を取り出し」「内容を読み取る」ところまでは都と比べても大きな差はない。しかし「解決」の段階で小さくない差が生じている。上の表には記していないが、細かく見ると、国語、理科でさらにその傾向が強い。普段の学習でも、自ら解決方法を考える前に答えを指導者に尋ねるといった場面が多い。それが原因と考えられる。

(2) 反応率（都・区・本校）及び分析と考察

	小4算数	
東京都	99.1	左の表のように、反応率は、都、区と遜色ない結果だった。こういった調査が始まった時、日本は「無回答が多い」と言われた。回を重ねるごとにそれが解消されていることがわかる。本校においても同様である。普段の授業でも、こういったことを意識して指導しているこ
江戸川区	99.1	
本校	99.0	

（単位 %）ともあるが、児童の意識が変わってきていることも事実である。

2. 児童の学力向上のための具体的な方策

- (1) 確かな学力向上プラン、年間計画の見直し
- (2) 「篠小タイム」の一層の充実
- (3) 学校応援団と活用しての読書生活の充実
- (4) 学校応援団学習支援ボランティアの有効な活用

以上を通し、問題解決の手法をより多く児童に示すとともに、そういった場面を増やすことにより、児童の問題解決の意識の向上と技能の定着を図る。